

会 議 録

会 議 名	第 2 1 期小金井市公民館企画実行委員の会議 第 1 8 回		
事 務 局	公民館 本館		
開 催 日 時	平成 2 4 年 3 月 6 日 (火) 午前 1 0 時から正午		
開 催 場 所	公民館本館		
出 席 委 員	遠藤委員、末包委員、菅沼委員、福井委員		
欠 席 委 員	阿部委員、野口委員		
事 務 局 員	渡辺社会教育主事、和田主任		
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	1 公民館運営審議会の報告 2 企画実行委員改選について 3 来年度事業について ○子どもの人権講座について ○福祉会館まつりについて ○成人大学講座について ○スポーツ祭東京 2013 応援の取り組みについて		

司会 遠藤企画実行委員

それでは、公民館運営審議会の報告からお願いします。

1 公民館運営審議会について

渡辺（陽）： 2月24日の金曜日に、2月の会議が行われました。報告事項としまして、社会教育委員の会議、公民館事業の報告などを行いました。本館からは、成人学校の「西洋絵画を読み解くⅡ」と、「まちづくり講座」を報告いたしました。また、本町分館から、国際交流事業「住んでみてわかるラオス」と、成人学校の「多摩の歴史から小金井を探る～スライドで見る多摩の戦争遺跡から小金井の遺跡を探る～」を報告いたしました。この講座は、本来10回の連続講座にしてもいいような豊富な内容を講師が2回講座にまとめてスライドで解説するというもので、現在進行形の取り組みの紹介もあり、大変素晴らしい講座であったという報告をさせていただいております。また、委員からの質問については、まちづくり講座と成人学校の参加者の年齢層はどうだったのかとのお話がありました。申込の際に、本館では年齢をお聞きしていませんので、お見受けした範囲で、「まちづくり講座については、60歳代が中心でしたが、成人学校『西洋絵画を読み解くパートⅡ』については、年齢層の幅が広く、若い方も多かった」とお答えしました。また、「西洋絵画を読み解く」の講座に人気が集まる理由は、という質問がありました。西洋絵画を鑑賞するのは、今、ブームであることも事実ですが、この講座が、絵画の技術論に加えて、歴史的、哲学的な背景を合わせて解説するような視点をもっていたことも評価された原因ではないかということをつけ加えさせていただきました。審議事項といたしまして、公民館の事業の計画と情報ネットワークについて議題になりました。

末包委員：事業計画は、配る必要はないと思いますが、3月に配布される、一年間の事業計画について、出来ましたら配布していただきたいと思います。

司会：それでは、次に企画実行委員の改選についてお願いします。

渡辺（陽）：7月に第21期の企画実行委員の任期が終了して次期の企画実行委員の改選となります。

福井委員：前回、6月に説明会と調整会を行ったわけですが、日程は、だいたい同じ時期になるのですか。

渡辺（陽）：前回、6月1日に説明会を開催し、15日に調整会を行いました。7月の任期開始時期から逆算しますので、日程は大きく変わることはありません。具体的には、3月の職員の事務打ち合わせで日程を確認してお知らせします。市報は5月15日号に掲載する予定であります。

菅沼委員：なるべく早めに知らせて頂ければと思います。

遠藤委員：私と末包委員が3期で、他の4委員が今度で2期ということになります。それでは、来年度事業、「子どもの人権講座」からお願いします。

渡辺（陽）：2月13日と28日に準備会をもちました。みなさんから、取り上げたいテーマを出していただきました。具体的には、「小金井子育て・子育てネットワーク」について、市民協働でネットワークが立ち上がったので、そのことを取り上げて欲しいという提案がありました。それから、これはニュースでもお聞きしていると思いますが、「子ども・子育て新システム」についてです。幼保一元化だけでなく、子どもにかかわる制度が大きく変わりますので、興味のある方も多いようです。また、学校のあり方に関連して、「学び合いの教育」「一人ひとりの個性を大切に教育」についての最近の動きを取り上げたいというご意見がありました。その他、放射能被曝と子どもの問題についての要望もありました。

末包委員：それは、とても大切な課題です。

渡辺（陽）：自己肯定観を育むことに関して、講座に取り入れてはという要望もありました。

末包委員：自己肯定観を育むというのは、どういう意味ですか。子ども自身が、ということですか、親がということですか。

渡辺（陽）：双方です。ワークショップの手法があるそうで、講座にとりいれてはという提案がありました。

末包委員：たぶん、他人を思いやる心を育むためには、まず自分自身を大切に思えることが肝心で、そういう意味での提案ではないかと思いますが、そういうことですか。

渡辺（陽）：はい、そうです。その他、発達支援センターのこと、発達相談のことと、個性を尊重する子育てについての要望も多かったです。

末包委員：2月28日には何人が参加されたのですか。

渡辺（陽）：準備会からの一般参加の方は、8名でした。

菅沼委員：子どもの人権講座の内容は、いいテーマですね。

末包委員：そうですね。特定の団体の方が、自分のサークルの先生を講師にというかたちで推薦して、その他の講座には参加しないようになると困るのですが、自分の提案しなかった講座の日にも参加するようになるべきですね。

渡辺（陽）：そうですね。「子どもの人権講座」のいいところは、ご自分のテーマや関心のある講座だけでなく、それ以外の講座にも興味を持って参加するようになっていくところがいいですね。

司会：次に「福社会館まつり」についてお願いします。

渡辺（陽）：1月の福社会館まつり実行委員会の際に、「子どもたちが参加する賑わいのあるまつり」のためのいくつかの宿題をいただきましたが、2月29日に世話人会をもち準備を進めています。具体的に報告します。まず、「賑わいのあるまつりのために、農協とコラボはできないか」という提案についてですが、JAむさしの方々が仲介してくださり、小金井の農家の方たちに呼び掛けていただいております。また、「地域の学校に呼び掛け子どもたちと作品展を」という提案がありました。本木隆福社会館まつり実行委員長と私で、小金井市立小金井第一小学校に挨拶に行きました。図工の山下先生に窓口になっていただきました。「小金井の自然、日本の自然」というコーナーをつくって、子どもたちとサークル員との共同展示をしようという方向で企画が進んでいます。また、「人の集まる、映画の上映を」という提案についてですが、阿部企画実行委員にもご協力いただき、「オカンの嫁入り」を上映する予定です。また、公民館企画としては、東京農工大学のサークル「マイクロコンピュータクラブ」の協力を得て、ITフェスタを行う予定です。

司会：それでは次に成人大学についてお願いします。

菅沼委員：前回も提案させていただいたのですが、EUについて、をテーマとして推薦します。東京学芸大学では、複数の教授が協

力して、歴史、地誌、政治、文化と多方面から学際的にヨーロッパを取り上げた研究がおこなわれています。ギリシャ危機などが問題になる今、EUを取り上げることの意義は大きいと思います。

遠藤委員：その他としては、「青鞥100年～歴史を開いた女性たち」という企画はいかがでしょうか。昨年、岩田重則先生をお招きして「いのちの社会史」をおこなったのですが、「青鞥」を前面に出せば、もっと参加者も多くなったような気がします。樋口恵子さんと大石学先生が講演されています。

渡辺（陽）：このテーマで、この講師ですと参加者は多くなりそうですね。

菅沼委員：テーマとしては、男女共同参画講座で取り上げたほうがいいのかもかもしれません。

渡辺（陽）：たしかにそうですね。ただ、男女共同参画講座は準備会が後日ありますので、ここで決めるわけにはいきませんが。

福井委員：「青鞥・・・」は実現するかどうかわかりませんが、男女共同参画講座準備会で提案していただくということで、成人大学のテーマとしては、EUをテーマとすることで進めるということではないのでしょうか。

司会：それでは、スポーツ祭2013応援の取り組みについてお願いします。

渡辺（陽）：スポーツ祭2013について、教育委員会を上げて取り組もうということになっております。具体的には、前生涯部長から、公民館でもぜひ盛り上げの企画を考えて欲しいという問題提起がありました。職員事務打ち合わせで検討して、一年前の2012年からイベントをしようという方向が確認されています。

福井委員：実際の国体は2015年ですか。

和田：2013年です。第68回国民体育大会と第13回全国障害者スポーツ大会が行われます。小金井市では弓道とバスケットボールの競技が行われます。すでに、来年度にはデモンストレーションイベントとして、バスケットボールのスポーツ行事が行われます。

渡辺（陽）：今、提案されている企画を紹介します。メインの企画として、「手づくりのぼり旗ワークショップ」を考えています。

それに合わせて、「ゆりーとダンス」や映像や「うちわ、ぬいぐるみワークショップ」また、講演会などが候補に挙がっています。

菅沼委員：本館としては、講演会を担当してはいかがでしょうか。

渡辺（陽）：その他、シルバー大学講座のなかで「東京オリンピック」を上映するという提案もあるそうですが、いろいろなかたちで、盛り上げていけたらいいですね。

司会：その他の報告ありますか。

末包委員：3月3日に国分寺市立本多公民館で行われました東京都公民館連絡協議会の研修会に参加しました。テーマは「公民館の事業評価について」でして、講師は伊東静一さんでした。この評価を行う時、誰がかかわるのですか。公運審委員はどうかかわるのですか。

渡辺（陽）：評価というと、従来はもっぱら行政職員が、ということでしたが、今回の評価は、「関係者と共に」というところが特徴です。ですから、職員だけで評価をおこなうのではなく、講座の企画、運営にあたりましたメンバーがまず、自己評価を行うということです。もちろん公民館運営審議会委員も関係者です。

福井委員：というと例えば、評価シートをつくって評価を行うという場合、公運審委員も、評価シートに点数を入れると・・・。

渡辺（陽）：必ずしもそういう意味ではなく、実際講座企画に参加したメンバーがまず、そのような評価シートを作成するのが自然な流れになると思います。ですから、公民館運営審議会委員が、講座企画に参加しているかどうかによっても、評価の仕方は変わってくるのではないのでしょうか。

福井委員：当日配布されました資料がありますので参考にしてください。

以上